

神戸国際法ワークショップ

北極をめぐる法政策的課題

日時：2015年4月24日（金）9:30～16:00

場所：神戸大学六甲台キャンパス

第五学舎（国際協力研究科棟）6Fシミュレーションルーム

後援：神戸大学国際交流推進機構

趣 旨

今、北極が熱い。地球温暖化により海氷が後退し格段にアクセスしやすくなった北極圏は、これまでの科学観測活動に加えて、航路開通、観光、鉱物及び生物資源開発の場として各国が熱い眼差しを向けている地域です。北極圏における人間活動の増大は、必然的にそれに伴う法政策的課題を惹起し、今、北極評議会(Arctic Council)などの場でこれら法政策的課題の解決が試みられていますが、日本はオブザーバーに留まり情報量も影響力にも限りがあります。

この度、神戸大学国際協力研究科(GSICS)国際法プログラムでは、北極の法政策研究の最先端をいく4名の研究者をフィンランド、デンマーク、カナダからお招きし、北極をめぐる現代的な法政策的課題を平易に解説してもらい、堅苦しくない雰囲気でも自由に議論する場を設けました。富山で開催されている北極科学サミット週間(ASSW)との相乗効果も狙っております。どうぞご参加下さい。

主な報告内容と報告者

(詳細は裏面の英語版プログラムを参照)

フィンランド・ラップランド大学北極センターの Koivurova 教授は、長年にわたり北極に関わる国際法研究を先導されており、今回は、ロシアの再申請が注目されている北極海における大陸棚延伸問題につき現状と課題をお話しいただきます。カナダ・ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学の Loukacheva 准教授とデンマーク・オーフス大学北極研究センターの Pelaudix 助教授は、北極における資源問題を扱います。ラップランド大学博士課程に所属する Sellheim 氏は、北極圏先住民による海洋哺乳類の利用をめぐる問題を扱います。GSICSの柴田明穂教授は、北極評議会でも交渉が始まっている北極圏における科学観測活動を促進・規制する協定案につき紹介します。コメンターとして、GSICS 客員教授で南アフリカ・プレトリア大学教授の Tladi 氏、そして海洋法が専門の東北大学法学研究科准教授、西本健太郎氏にも議論にご参加いただきます。(ワークショップは英語で行われます。通訳はありません。)

*このワークショップは公開ですが、諸準備のため、ご出席予定の方は4月20日までに下記までメールにてお名前、ご所属をご連絡いただければ幸いです。

akihos [at] kobe-u.ac.jp

The Kobe International Law Workshop
The Arctic: Current Legal and Policy Issues

Date and Time: 24 April 2015 (Friday), 9:30 - 16:00

Venue: Simulation Room, 6th Floor, GSICS Building,
Kobe University main campus, Rokkodai-cho, Kobe, Japan

Supported by Kobe University Institute of Promoting International Exchange Programs

Presentations:

“Between Livelihood and Preservation: The Marine Mammal Hunt in the Arctic”

Nikolas Sellheim, PhD candidate, University of Lapland, Finland

“Arctic Resources and Law”

Natalia Loukacheva, Canada Research Chair/Associate Professor,
University of Northern British Columbia, Canada

“Extended Continental Shelf Developments in the Arctic”

Timo Koivurova, Professor, Arctic Centre, University of Lapland, Finland

“Offshore Hydrocarbon Activities in the Arctic and the Fragmentation of Law”

Cécile Pelaudeix, Assistant Professor, Arctic Research Centre, Aarhus
University, Denmark

“An Arctic Scientific Cooperation Agreement?”

Akiho Shibata, Professor, GSICS, Kobe University, Japan

Commentators:

“Comments from a general international lawyer”

Dire Tladi, Visiting Professor, Kobe University; Member, UN International
Law Commission, Professor, University of Pretoria, South Africa

“Comments from a law-of-the-sea expert”

Kentaro Nishimoto, Associate Professor, Graduate School of Law, Tohoku
University, Japan

*This seminar is open to public, but for logistical preparation, pre-registration is requested by sending a e-mail **by 20 April**, with your name and affiliation, to:

akihos [at] kobe-u.ac.jp